

◆奨励賞◆

自然にふれた、またね村

神田小学校五年

菅原檎花

わたしがまたね村に行つたきっかけは、わたしの学校では、いつもホールームの時間に、おたよりをくばります。そのときにたまたまくばられたのが、「平塚伊豆友好とし交流キャンプ」の、チラシでした。わたしは、それを見て自分も行つてみたいときようみをもち、すこし心ぼそいので仲のいい友だちと、もうしこみをして行けることになりました。そして当日になり、わたしは、バスにのつてまたね村へ行きました。

またね村では、いつもの生活とは、すこしちがいました。自然にみちあふれていて、しかやいのししあな熊などいろんな動物たちが身近なところにいました。それに、そこでは「衣、食、住」のほとんどがいつもどちがいました。たとえば、「衣」は、いつもだつたら着ていたパジャマも、着ずにつぎの日のふくを着たり。「食」は、焼きマシユマロをするときもふつうの竹ぐしではなく、自分たちで枝を見つけたり。「住」では、いつもは、ふかふかのベットや、ふとんをつかつたりするけどそこでは、ねぶくろをつかつてねました。ほかには、またね村で、トレッキングをしたときにこのような話をききました。しかは、人げんとはちがい、1才でも子どもをうむことができてとてもほんしょくするスピードが速い動物です。でもだからこそ、人げんにきがいを加えてしまふかのうせいが上がつてしまふためしかを狩らなければいけないじょうきようという話をきました。しか

ししようがなく狩られてしまつたしかの肉をありがたくいただいたりしかの皮や角なども生活の中で大切に再利用している、またね村の人たちの、気持ちがとてもよく話の中で伝わってきました。そしてそこでは、動物の命のリレーなどを深く知る事ができました。

動物たちの命の大切さや、いつもの生活が、当たり前でないことや、1日1日を今までどうやつて過ごしてきたかを、感じさせるようなとてもいい体験をすることができてとても楽しかつたです。もしよかつたらみなさんも、足を運んでみてください。